

三菱ガス化学株式会社「2022年度第1四半期決算説明会」質疑応答要旨

日時：2022年8月5日（金）18:00～19:00（WEB説明会）

説明者：取締役 常務執行役員 経営企画部管掌 兼 CSR・IR担当／北川 元康

Q1: 機能化学品について。1Qは会社側修正予想と比べてかなり高進捗に見える。2Qはどのように見ているのか。また、BT材料の見通しをどのように考えているのか。

A1: 光学樹脂は、上期及び通期でも見通しを下方修正した。1Q実績は、4月の販売は非常に好調。ただ、やはりロックダウン前の先取りがあったのか5～6月は低調。但し、ならずと昨年度1Qよりは増収増益に。明るい話題もあり、ペリスコープ（潜望鏡）型レンズも普及し始めるなど、より多くのレンズの枚数を重ねてより高画素になってきており、当社のEP材が高屈折率と低複屈折率を兼ね備えていることから、当社にとっては追い風と期待している。

BT材料は、同様に4月までは好調だが、5月からやはり受注がやや低調に。上期及び通期ベースでも、保守的に見て少し下方修正をした。但し、下げ幅は光学ほどではない。汎用材が前期比でやや落ち込んでいる。一方、得意とする低反り材や高周波材はあまり落ちていない。スマホの方は販売台数そのものが一時的に踊り場に入り低調になってきても、5GスマホはやはりAiPの普及などもあり搭載される半導体の数も増えていると確信している。

Q2: 全般的に見ると、光学樹脂とBT材料は、エンドのスマホ及び家電製品などを保守的に見込んだが、ハイエンド側はあまり心配がないという感じか。

A2: そのように認識している。

Q3: メタノール市況が、ガソリン又はエチレンに対してもかなり弱含んでいる背景について教えて欲しい。何か特別な要因があるのか。併せて、先ほど為替という話があったが、それはベネズエラの為替差損という考えか。

A3: 2つ目のご質問の為替差損は、日本・サウジアラビアメタノールの外貨建て借入金に係る為替差損。

1つ目のメタノール市況について。まず3～4月にかけては、世界情勢などを踏まえて市況は高騰した。その後、欧州向けのメタノールは北米などから供給され、イランのプラントも稼働が回復してきたことで、少し需給が緩んだ。また、中国の需要がロックダウン影響などで弱含みしたこと、これが市況に影響したと推測。なお、メタノールの市況は、原油や石炭に影響される部分もあるが、基本的にはメタノール自体の需給バランスで決まる。

Q4: 中国市場はやや分断されており、イランが立ち上がってきたりしたので少し需給が緩んだが、下期に経済がある程度回復してくれば、メタノール価格も想定水準まで回復しそうだという見方か。

A4: 下期を当初想定通り420ドルに設定した理由について。供給サイドは今年も冬場に向けて暖房需要が強く、イランあるいは中国でも天然ガスの制限が起こる可能性があるかと想定。一方、需要サイドでは、中国で新しいMTOが稼働を開始する予定。そうしたことから需給がタイト化し、市況上昇に向かうと想定している。

Q5: (旧)機能化学品セグメントが、4Qから1Qで増益となった背景は。

A5: 円安効果や、ポリアセタールが非常にタイトで好調な状況が続いたことがある。さらに、光学樹脂も少しアップ&ダウンが激しくなっているが、4Qから1Qにかけては販売数量が増加している。

Q6: ポリカーボネート事業について。上海ロックダウンの影響は。

A6: 4月と5月の販売数量は30%減ぐらいで収まり、6月にはフル稼働に戻った。1Qについては、低価格の要因や、定修時期の変更などがプラスに働いたほか、ビスフェノールAの価格が落ちついてきていることや、高付加価値品を優先出荷したことも損益にプラスに寄与している。引き続き各種コスト改善に取り組んでいく。

Q7: エンジニアリングプラスチックの2Q以降の見通しは。

A7: ポリアセタールは好調だが、ポリカーボネートはロックダウンの影響を引きずっている。需要が盛り上がっておらず、中国ローカルのサプライヤーが多いので、需給環境的にはまだ厳しい。高付加価値化と変動費改善を含めたコスト削減を進めていく。

Q8: 半導体およびスマホの ICT 関連について。半導体薬液から見た半導体デバイスの稼働と、BT 材料でやや跛行性があるように感じるが、いかがか。

A8: ICT 関連3事業(半導体薬液、BT 材料、光学樹脂ポリマー)も各々特徴があり、それぞれのサイクルや波長が違っている。

半導体薬液は各種半導体全般にくまなく需要されているが、特に強いメーカーに需要されている。もう一つは、半導体の生産個数や出荷個数にストレートには影響されにくいところがある。つまり、工場が一定程度稼働している限りは、その交換需要も含めてインフラのような使われ方になっているため、比較的安定しているとも言える。

一方で、スマホ関係については、下期に新機種向けの生産の立ち上りを期待している。BT については、昨年比では汎用分野の需要で一服感が出ているが、今申し上げたスマホ向けの動向が一つのポイントになる。当社としては、強みを持っている低反りと高周波特性の分野を中心に伸ばしていきたい。

Q9: ポリアセタール樹脂について、1Q は非常に好調かつ下期もタイト感が続くとのことだが、他社では自動車関係で減った動きもある中で、貴社が好調な背景は。また原料も上がっているが、価格転嫁できているのか。

A9: 他社とは主戦場としているマーケットの地域差もあったと推測。当社の主戦場は韓国と東南アジアであり、中国のロックダウン影響は比較的軽微。加えて、ポリアセタールはまだマーケット自体が左程大きくない中で、大手2社と当社グループで世界シェアの約 6 割を占め、相対的に安定している。当社の強い分野では確りとその牙城を維持し、かつ需給バランスもタイトな中で、原燃料の上昇分も価格転嫁できている。

Q10: 旧セグメント別の機能化学品の営業利益予想について。前回 5 月の公表値から上方修正しているが、その要因としてはどの製品分野が大きいのか。

A10: まず機能化学品全体として、光学材料のマイナス要因が大きい。一方で好調なポリアセタール、円安効果がプラス要因かと思う。半導体薬液については予想を据え置いた。

Q11: BT 材料について。ハイエンドスマホ向けが 1Q から 2Q にどう推移する見込みか。

A11: 今期スマホ向けは厳しい状況だが、ローエンド・ミドルエンドスマホ向けの落ち込みに比べ、ハイエンドスマホ向けの落ち込みは少ないと想定している。

Q12: 機能化学品セグメントにおいて、上期から下期に大幅な増益を見込んでいる理由を説明してほしい。

A12: 中国ポリカーボネート事業の損益改善、鹿島工場での定期修繕差などを業績予想に織り込んでいる。

Q13: 2Q におけるメタノール市況を 380 ドルと予想しているとのこと、足元の 340~350 ドルに対して、2 か月で急速に戻るような前提だが、その背景を教えてください。

A13: 足下の市況も下げ止まりやや回復基調にある。当社の上海の販売拠点も全般的に回復基調にあり、中国経済も今がボトムかと思っている。MTO、CTO のプラントの稼働率も 8 割以上で推移しているようだ。そのため、中国のメタノール市況も戻ってくるのではないかと期待している。

以上

(本資料に関する注意事項)

本資料については、上記説明会での質疑応答について、加筆・修正を加え、当社の判断で簡潔に纏めたものであることをご了承ください。また、説明会資料同様、記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、説明会当日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。